



【WICI シンポジウム 2017のご案内】

伝統的財務報告の限界を超えて価値創造活動を適確に伝達しようとする活動に、米・欧・日それぞれが1990年代から取り組んできました。その活動の担い手が2007年10月にOECD本部に集まり、それぞれの地域特性を反映しつつ共通基盤に乗せて価値創造ストーリーをステークホルダーと共有できるように開示しようと協議をはじめました。その中から、米国の「改善された事業報告協議会（Enhanced Business Reporting Council-EBRC）」、欧州の「財務アナリスト協会欧州連盟（European Federation of Financial Analyst Societies-EFFAS）」および「フェラーラ大学（University of Ferrara）」、日本の経済産業省および早稲田大学知的資本研究会によって、WICI（World Intellectual Capital/Assets Initiative-知的資本・資産世界構想）が2007年11月に設立されました。

WICIは、直ちにEBRCの「改善された事業報告フレームワーク（ver.2.0）」と経済産業省の「知的資産経営の開示ガイドライン」の統合作業に着手し、「WICI事業報告フレームワーク」をまとめました。それは、①企業における価値創造ストーリーの表明、②企業のビジネスサイクル期間にもとづくビジネスモデルの提示、③それぞれのKPIを含む財務・非財務データおよび将来を見通すことに繋がる情報の提供、これらを3本柱にして発行体に開示を求めています。以来、WICIは、これらの経営開示の啓蒙・普及を図るために、2008年からWICIシンポジウムを毎年晩秋に東京で開催してきており、数えて今回は10周年の記念シンポジウムになります。

この間WICIは、日米欧各地域での活動をベースとしつつ、非財務情報の意義や開示に関連する国際会議に意欲的に参加し、その取り組みを広めてきました。その一環として、英国のPaul Druckman氏が中心となって2010年に設立した国際統合報告委員会（International Integrated Reporting Committee）に人材を派遣するなど全面協力し、2013年にまとめられた「統合報告フレームワーク」に多くのインプットを行いました。IIRCとの間では、相互協力協定の下、WG等のメンバーになるとともに、Intangiblesに関しては、同フレームワークの実質的なガイドとなる「WICI Intangibles Reporting Framework（WIRF）」を2016年9月に公表しました。

10周年記念の「WICIシンポジウム2017」を来る12月1日（金）に早稲田大学大隈講堂および小講堂において開催いたします。この10年間のWICIの歩みを振り返りつつ、これからもさらに取り組まなければならない課題を登壇者のもとより会場にお越しいただく方々と共に考える機会にしたいと企画しております。換言すれば、上場会社に限っても本年は統合報告書の公表会社が300社を超えているなか、社会との係りを重視する企業をはじめ多くの組織において、自らの社会的存在意義をステークホルダーとの対話を通じて確認しつつ価値創造プロセスを一層高めることが要請されつつあります。それに応えるには、組織の価値創造ストーリーを適確に理解してもらうのに必須の意思疎通の手段としての統合報告を一層活用することが必要になりますが、そのためにWICIの活動をこれからどのように展開するかを展望する機会にしたいと考えております。

入場無料のシンポジウムですので、お誘いあわせのうえ、ふるってご参加いただければ幸いです。参加される方はWICIホームページ (http://www.wici-global.com/index_ja) からお申込みください。

2017年10月吉日

Stefano Zambon
Chairman

World Intellectual Capital/Assets Initiative

素案

・登壇者については一部折衝中つき変更する場合があります。肩書は素案作成時(2017.11.02.)
*コンカレントセッションについては調整中

WICI Symposium 2017 (第10回記念シンポジウム)

“投資家との対話の経験を活かし、統合報告を社会との対話へ展開する”

主催 World Intellectual Capital/Assets Initiative (WICI)・
後援 経済産業省(後援依頼中)、国際統合報告評議会 (International Integrated Reporting Council-IIRC)
 有限責任あざさ監査法人、PwC あらた有限責任監査法人、新日本有限責任監査法人、有限責任監査法人トーマツ、太陽有
協賛(予定) 限責任監査法人、(株)エッジ・インターナショナル、(株)電通、トップン・エディトリアル コミュニケーションズ(株)、(株)バリュー
 クリエイト、(株)ICMG、(株)ファルコン・コンサルティング、他(交渉中)
開催日 2017年12月1日(金)
会場 早稲田大学大隈講堂(大講堂・小講堂)
 〒109-0071 東京都新宿区戸塚町1-104 電話: 03-3203-9746 <https://www.waseda.jp/culture/en/facility/>

プログラム

9:30-9:40	開会の辞(ビデオ参加)	Stefano Zambon 氏(WICI Chair)
9:40-9:50	祝辞: 経済産業省関係者(依頼中)	
9:50-10:30	基調講演:「日本企業の経営改革の方向性-『資本効率の最適化委員会報告書』を中心に」 志賀 俊之 氏(経済同友会副代表幹事)	
10:30-11:10	特別講演:「なぜ世界は統合報告を必要としたのか-IIRCがWICIに期待した役割」 Paul Druckman 氏(IIRC創設者 前 IIRC CEO) インタビュアー 三代まり子 氏((WICI-J)運営委員、RIDEAL(株)代表取締役)	
11:10-12:20	Session 1:「日本の統合報告を次の展開へ~起業、中小企業そして中堅企業に成長する各段階でのステークホルダーとの対話を図る~」 成熟期に入った日本経済にとって、起業が果たす社会的役割はますます増大し、注目も高まっている。起業から社会的に認知される一人前の企業になるまでの各段階で、創業経営者であっても、助っ人参加の経営者であっても、自社固有の価値を創造するには、成長発展のいずれの段階にあっても、内外のステークホルダーと対話が事業戦略の適確な立案と遂行のカギを握っている。対話の反復・継続は、手元に潜在しながらも自覚していなかった経営資源を発見し、新たなビジネスチャンスを開るばかりでなく、経営情勢の変化に応じるビジネスモデルの再構築へ結びつくといった効果も生むことになる。期待される対話を促すうえで、わが国が蓄積してきている「中小企業知的資産経営報告」の経験を、統合報告へ展開させる筋道を考える。	
	司会者:	瀧口 匡 氏 (早稲田大学客員教授 ウェルインベストメント(株)社長)
	コメンテーター	松田 修一 氏(早稲田大学名誉教授)
	パネリスト:	諸永 裕一 氏 (経済産業省 経済産業政策局 知的財産政策室長) 森下 勉 氏 (㈱ツトム経営研究所所長) 戸崎 豊 氏 (J-STAR(株) プリンシパル) 津久井 弘昭 氏 (フロイント産業(株) コーポレート・コミュニケーション部長) 門田 秀紀 氏(税理士法人 山田&パートナーズ アドバイサリー本部 パートナー)
12:20-13:20	第5回WICIジャパン統合報告優良企業表彰 ・審査委員長 松島 憲之 氏(三菱UFJモルガン・スタンレー証券 チーフリサーチャドバイサー) 講評 ・WICI ジャパン統合報告優良企業賞 表彰式 「統合報告優秀企業大賞」「統合報告優秀企業賞」「統合報告奨励賞」 ・記念撮影 ・受賞企業代表 挨拶 ・審査委員からの感想と提案(司会進行 宮永 雅好 氏-東京理科大学大学院イノベーション研究科教授) 内山 哲彦 氏 (千葉大学法政経済学部教授)、本多 淳 氏 (WICI ジャパン上席研究員)、 光定 洋介 氏 (産業能率大学経営学部教授)、河口 真理子 氏(大和総研調査本部 主席研究員)	
13:20-14:20	昼食休憩	
14:20-14:30	統合報告動向紹介 「フランス上場会社おける統合報告データの開示動向分析-ビッグデータ・アプローチによる」 Ahmed Bounfour 氏(パリ南大学教授、New Club of Paris 会長)	

14:30-15:40	<p>Session 2: 「<IR>フレームワークの果たしてきた役割と課題」</p> <p>2013年にIIRCは「統合報告フレームワーク(<IR>FW)を公表し、それに続き<IR>FWにおいて事業報告の分野に新た導入された概念とそれを支えるスキルを解説したバックグラウンド・ペーパーを公表した。以来数年を経過し、統合報告書さらには統合思考経営に関心を持つ企業はそれぞれに統合報告の習熟に務めてきている。しかし、わが国で統合報告の成果を一層高めようとするとき、なお幾つかの克服すべき論点がある。例えば、統合報告が担う主たる役割である価値創造ストーリーを判りやすく伝えようとするとき、果たしてその組織が大事にする「価値」は何か、創造される「価値」をステークホルダーはどう評価するのか、特に、outcomeとしての「価値」についての認識が重要である。こうした点にアプローチする上で、今年5月に経済産業省が公表した「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」が有用と考えられ、その活用につき検討する。</p>				
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 481 496 517">司会者:</td> <td data-bbox="496 481 1514 517">安藤 聡 氏 (オムロン(株)取締役)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 517 496 687">パネリスト:</td> <td data-bbox="496 517 1514 687"> 福本 拓也 氏 (経産省産業資金課長兼新規産業室長) Jonathan Labrey 氏 (IIRC Chief Strategy Officer) 齋尾 浩一郎 氏 (KPMG ジャパン 統合報告センター・オブ・エクセレンス) 貝沼 直之 氏 (有限責任監査法人トーマツ、統合報告アドバイザー室長) 鈴木 行生 氏 (株日本ベル投資研究所 代表取締役 主席アナリスト) </td> </tr> </table>	司会者:	安藤 聡 氏 (オムロン(株)取締役)	パネリスト:	福本 拓也 氏 (経産省産業資金課長兼新規産業室長) Jonathan Labrey 氏 (IIRC Chief Strategy Officer) 齋尾 浩一郎 氏 (KPMG ジャパン 統合報告センター・オブ・エクセレンス) 貝沼 直之 氏 (有限責任監査法人トーマツ、統合報告アドバイザー室長) 鈴木 行生 氏 (株日本ベル投資研究所 代表取締役 主席アナリスト)
司会者:	安藤 聡 氏 (オムロン(株)取締役)				
パネリスト:	福本 拓也 氏 (経産省産業資金課長兼新規産業室長) Jonathan Labrey 氏 (IIRC Chief Strategy Officer) 齋尾 浩一郎 氏 (KPMG ジャパン 統合報告センター・オブ・エクセレンス) 貝沼 直之 氏 (有限責任監査法人トーマツ、統合報告アドバイザー室長) 鈴木 行生 氏 (株日本ベル投資研究所 代表取締役 主席アナリスト)				
15:40-16:50	<p>Session 3: 「統合報告時代における ESG 開示」</p> <p>企業が ESG 開示を行い、投資家がそれを重視する傾向がますます強まってきている。一方、社会課題への取組み、経営の規律確保などは、企業が当然に意識すべき経営課題であるが、それが本業やそれを支える強みとの関係で明確に位置付けられて初めて意味のある取組となるのであり、一律に取り組むべき項目があるわけではない。今や世界の共通語となりつつある国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」における17項目についても、同様に、それぞれの企業がどの部分に関心を持ち、貢献をしていくのか考えることが重要である。いまこそ、組織が内外のステークホルダーとの対話を図り、組織の経営情勢に照らしつつ優先的に取り組むべき活動について統合報告書において明らかにして、ステークホルダーとの一層のコミュニケーションを図りながら自らの価値創造活動の内実を固めていく統合思考経営を展開するときではないのだろうか。</p>				
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1220 496 1256">司会者:</td> <td data-bbox="496 1220 1514 1256">富田 秀夫 氏 (ロイド レジスター ジャパン(株) 取締役事業開発部門長)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 1256 496 1323">パネリスト:</td> <td data-bbox="496 1256 1514 1323"> 荒井 勝 氏 (NPO 法人 日本サステナブル投資フォーラム (JSIF) 会長) 鷹羽 美奈子 氏 (MSCI ESG リサーチ バイス・プレジデント) Heather McLeish 氏 (新日本有限責任監査法人 CCaSS 上席マネジャー) Jean-Philippe DESMARTIN 氏 (WICI Europe, Head of Responsible Investment, Edmond de Rothschild Asset Management) Alyson Genovese 氏 (GRI, Head of Regional Hub, USA & Canada) </td> </tr> </table>	司会者:	富田 秀夫 氏 (ロイド レジスター ジャパン(株) 取締役事業開発部門長)	パネリスト:	荒井 勝 氏 (NPO 法人 日本サステナブル投資フォーラム (JSIF) 会長) 鷹羽 美奈子 氏 (MSCI ESG リサーチ バイス・プレジデント) Heather McLeish 氏 (新日本有限責任監査法人 CCaSS 上席マネジャー) Jean-Philippe DESMARTIN 氏 (WICI Europe, Head of Responsible Investment, Edmond de Rothschild Asset Management) Alyson Genovese 氏 (GRI, Head of Regional Hub, USA & Canada)
司会者:	富田 秀夫 氏 (ロイド レジスター ジャパン(株) 取締役事業開発部門長)				
パネリスト:	荒井 勝 氏 (NPO 法人 日本サステナブル投資フォーラム (JSIF) 会長) 鷹羽 美奈子 氏 (MSCI ESG リサーチ バイス・プレジデント) Heather McLeish 氏 (新日本有限責任監査法人 CCaSS 上席マネジャー) Jean-Philippe DESMARTIN 氏 (WICI Europe, Head of Responsible Investment, Edmond de Rothschild Asset Management) Alyson Genovese 氏 (GRI, Head of Regional Hub, USA & Canada)				
16:50-18:10	<p>Final Session: 「ステークホルダーとの対話により組織の価値創造力を確認し、統合報告の新たな次元へ」</p> <p>WICI は、IIRC と手を携えながら、統合報告の啓蒙・普及を図ってきた。価値創造プロセスを一つのストーリーとして説明することの重要性についても IIRC と共通の認識に至り、昨年公表した「WICI 無形経営資源報告フレームワーク(WIRF)」は、その実質的なガイドとしての役割を果たす。しかし、公表されている統合報告において、こうしたストーリーが明確なものは依然として多くなく、より実質的な、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、統合報告が進化することが期待される。その実質をステークホルダーと議論することになると、組織が本当に大切にしている価値観が明確になる。それこそがその組織の個性であるが、その段階においては、「資本効率最適化」の徹底であったり、組織の利益にとどまらない「公益資本主義」的な考え方であったり、自然との共生であったり、といった組織の目指す方向性が対話を通して明確になり、理解される。それこそが、統合報告をより実質的なもの、個性あるものに発展させていく上で重要な要素であり、ステップなのではないか。</p>				
18:10-18:15	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1780 496 1816">司会者:</td> <td data-bbox="496 1780 1514 1816">住田 孝之 氏 (内閣府 知的財産戦略推進事務局長)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 1816 496 1830">発題者(ビデオ参加)</td> <td data-bbox="496 1816 1514 1830">原 丈人 氏 (アライアンス・フォーラム財団代表理事)</td> </tr> </table>	司会者:	住田 孝之 氏 (内閣府 知的財産戦略推進事務局長)	発題者(ビデオ参加)	原 丈人 氏 (アライアンス・フォーラム財団代表理事)
司会者:	住田 孝之 氏 (内閣府 知的財産戦略推進事務局長)				
発題者(ビデオ参加)	原 丈人 氏 (アライアンス・フォーラム財団代表理事)				
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1839 496 1874">パネリスト:</td> <td data-bbox="496 1839 1514 1874"> 鳥居 敏男 氏 (環境省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官) Paul Druckman 氏 (IIRC 創設者 前 IIRC CEO) 昆 政彦 氏 (WICI ジャパン運営委員、経済同友会「資本効率の最適化委員会」副委員長) 長友 英資 氏 (早稲田大学ビジネススクール客員教授、WICI Japan 会長) </td> </tr> </table>	パネリスト:	鳥居 敏男 氏 (環境省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官) Paul Druckman 氏 (IIRC 創設者 前 IIRC CEO) 昆 政彦 氏 (WICI ジャパン運営委員、経済同友会「資本効率の最適化委員会」副委員長) 長友 英資 氏 (早稲田大学ビジネススクール客員教授、WICI Japan 会長)		
パネリスト:	鳥居 敏男 氏 (環境省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官) Paul Druckman 氏 (IIRC 創設者 前 IIRC CEO) 昆 政彦 氏 (WICI ジャパン運営委員、経済同友会「資本効率の最適化委員会」副委員長) 長友 英資 氏 (早稲田大学ビジネススクール客員教授、WICI Japan 会長)				
18:30-20:00	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1888 496 1924">閉会の辞</td> <td data-bbox="496 1888 1514 1924">西山 茂 氏 (早稲田大学大学院商学研究科教授、WICI プロモーティング・パーティー)</td> </tr> </table> <p>ネットワーキング・ディナー(リーガロイヤルホテル東京 ガーデン・テラス)</p>	閉会の辞	西山 茂 氏 (早稲田大学大学院商学研究科教授、WICI プロモーティング・パーティー)		
閉会の辞	西山 茂 氏 (早稲田大学大学院商学研究科教授、WICI プロモーティング・パーティー)				

コンカレントセッション(CS)

(組織名は略称による)

	展示コーナー	大隈小講堂
(CS1) 11:20- 12:20	協 賛 団 体 の 展 示	協賛団体プレゼンテーション A 「XXX」 (スポンサー) Open
(CS2) 12:30- 13:30		協賛団体プレゼンテーション B 「XXX」 (スポンサー) Open
(CS3) 14:20- 15:20		協賛団体プレゼンテーション C 「XXX」 (スポンサー) Open
(CS4) 15:30 16:30		協賛団体プレゼンテーション D 「XXX」 (スポンサー) Open